

## 2015年7月7日開催 第600回番組審議会

### ■ 出席委員

櫻井美幸委員長、佐藤友美子副委員長、上田理恵子委員、神谷徹委員、小菅洋人委員、佐藤卓己委員、津村記久子委員(書面参加)、東野博昭委員、細見良行委員

### ■ 毎日放送出席者

三村社長、梅本専務、木田取締役、西田取締役、西村取締役  
大牟田コンプライアンス室長兼番組審議会事務局長  
北野東京制作室長、田中プロデューサー

### ◆ 審議事項

全国ネットテレビ番組「林先生が驚く初耳学！」(2015年5月31日(日)22:00～22:54放送)について意見交換した。

#### 【各委員の主な意見は次の通り】

- \* 雑学番組ではあるが、すごいのは「林先生が知っているかどうか」ということに特化していること。また、この番組は司会者がいない。この形がすごい発明だ。
- \* 教養番組と娯楽番組がほどよく融合されていて、完成度の高いエンターエデュケーション番組だ。
- \* 日曜日の10時という時間帯は、大人のちょっとゆっくりした時間で、あの番組には最適。
- \* リスクをとって林修という冠をつけたところが偉い。ライブ感というか真剣勝負感をもっと出れば、人気が出るんじゃないか。
- \* テーマのセレクトが何気ないけれどもすごく考えられていて、これからもそういう視点でぜひセレクトしてほしい。
- \* 子どもにとっては親とか先生が全能で、「知らない」と言うと、子どもとしたらすごくうれしいのと同じで、子どもっぽい感覚が基本にある。素朴に喜んでいる部分が嫌みなく出てくればいいが、それがエスカレートして、印象が悪くなっている部分もある。
- \* 「林先生が知っているか知らないか」が軸になっていて、トピックの一つ一つにある程度深みを持たせられることも強み。質のいいフリーペーパーのような、テレビらしい番組。
- \* 選んでいる初耳ネタも、身近なところで、教養ではなくて本当の雑学。そういう意味では、視聴者との距離感がすごくいい。  
知識を扱う番組で間違いは絶対いけない。十分に気をつけたほうがいい。
- \* 林先生は、上手にいじられることができるという意味で、すごく貴重なタレント。コンセプトはバトルにあるので、笑える程度に悔しさとか妬みが入って当然だが、バランスは保ってほしい。すごいという感心であったり、リスペクトがないと見

ている方はしんどい。

以上